

米山学友ホームカミング制度で招聘

元米山奨学生 ^{ちん} 陳 ^{しかん} 思乾さん講演会

地区米山奨学委員会

委員 **米田 猛**

(大阪西RC)

米山奨学会が本年度より始めた「米山学友ホームカミング制度」に、本地区元米山奨学生の陳思乾さん（台湾・世話クラブは大阪淀川RC）が招聘され、2008年12月6日（土）11時～12時、シテイプラザ大阪において講演会が行われました。参加者は近藤雅臣PG（米山記念奨学会常務理事）、笠原隆之助（米山奨学委員会委員長）、地区米山奨学委員、各クラブより会長、幹事、米山奨学委員長、奨学生受け入れクラブの米山カウンセラー、米山奨学生など、約100名余の出席で開催されました。

「米山学友ホームカミング制度」は、母国に戻り活躍する元米山奨学生を対象に、日本に里帰りし旧交を温めるという形で短期間招待する制度です。

陳さんは日本留学中、大阪大学に在籍し、1973年から75年まで米山記念奨学生となりました。帰国後、台湾で会社を興し、現在は台北東海RC会員でいらっしやいます。

講演は日本に留学して最初のカルチャーショックの話から始まります。銭湯に行った時のことだそうです。番台に女性が座っていたので下着を脱ぐのに戸惑いを感じただけでなく、風呂の中まで女性従業員が石鹸を整理したり、洗い場の台を整えるために入ってくるのに二度ビックリしたとのこと。また、台湾には大学の先生と学生と一緒に温泉に入る習慣がないそうですが、北海道の研修旅行で大学の先生と一緒に裸になって温泉に入り、お互いに打ち解けた話など、会場は一気に盛り上がりました。そして、

梅田の居酒屋でのアルバイト時代の話。台湾製は85%の品質で60%の価格、日本は100%の品質に150%の価格、礼儀の正しさと日本人の仕事に対する真面目さを学んだとの話に。73年からは米山奨学金を貰ったのでアルバイトをやめ、2年間の修士課程に学び、日本の米山奨学金に感謝する気持ちと米山梅吉さんの超我の奉仕に感銘を受けた話をされました。台北東海ロータリークラブは日本語を公用語とするクラブで、34名の会員の内11名が米山奨学生出身者。その米山奨学金の志を受け継ぐべく、日台ロータリークラブの架け橋になって、台湾でも日本の奨学生を受け入れる制度が実現できることになりましたと話されたところで、時間が押し詰まってきました。淀川RC時代には会員全員に悩みや相談に乗ってもらった感謝の気持ち、特にカウンセラーの脇阪栄一氏、青柳正男氏、田淵三郎氏には我が子のように可愛がってもらった心の広さは、私の宝と想い出を話された直後、感極まり涙で話が度々中断する様子に、話を聞く参加者に陳さんの米山奨学金に感謝する心の思いが十分に伝わりました。最後に、日本に来ている米山奨学生に対して、この感謝の心を是非伝えたいと話が結ばれました。

講演のあと、近藤PGは今日の話聞いた会員さんに、より一層の米山奨学金に対する支援を願い、奉仕から得られるのは感動であると強調されて講演会は終了しました。

